

実践のまとめ（第1学年 道徳科）

村上市立朝日みどり小学校
教諭 渡辺 知佳

1 研究テーマ

自他の関わりを通して、自己の生き方について考えを深める「特別の教科 道徳」の工夫 ～ねらいを明確にし、多面的・多角的に考えるための指導～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

① 学校教育の動向から

学習指導要領で明記されている「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業について、「特別な教科 道徳」の授業においては、以下のように捉える。

<主体的な学び> 自己評価や相互評価を通じて、自身の良い点や可能性に気づき、主体的に学習に取り組む意欲を高める。

<対話的な学び> ペアやグループで話し合い、問題点を解決するためにはどのような行動を取れば良いのかなどについて多面的・多角的に考えて議論を深める。

<深い学び> 教材の登場人物の心情・行動を自分の生活経験と比べ、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的価値の理解を深める。

この3つの視点に共通することは、「自他の関わり」によって「自己の生き方について考えを深める」ということであると考え。その実現に向け、「ねらいを明確にすること」や「多面的・多角的に考えること」が大切であると捉え、本研究テーマを設定した。

② 児童の実態から

本学級の児童は、新しい学習に前向きに取り組む、自分の考えを進んで伝えようとする児童が多い。また、ペアやグループでの話し合いに意欲的である。しかし、相手に分かりやすく表現する力が不十分であることや、伝えたい思いが先行し、聞くことが疎かになることがしばしばある。また、特定の児童の意見に流され、個々の考えが深まらない授業場面も多い。これまで、どの授業においても、この時間に何を学び、学ぶことでどんな力が付くのかを示すよう心掛けてきた。また、学習内容の習得を前提としつつ、学習形態の工夫でより良い学級づくりに力を入れてきた。しかし、習得した知識・技能を、生活にどう生かすかを考える指導方法については、課題がある。振り返りの時間の確保が不十分であることも課題の要因の一つとなっている。道徳科の時間においても同様であると考え、人と関わることが好きな児童の実態を、より自己の豊かな生き方につなげられるように自己調整できる力を育みたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 自己の考えを広げ、他者の考えを受け止めるための「役割演技」の活用

・ 焦点化を図る。（どの場面を演じさせるか。）

・ 全員に演じさせる。（①ペアで、おおかみ役とうさぎ役②同じペアで、役を交代する。）⇒全体の場で、代表ペアに演じさせる。代表児童…ペアでの役割演技から、おおかみへの思い入れの強い児童を指名する。

・ 自分で自由にセリフを考えて演じさせ、①見ていた児童→②演じた児童の順に、感じたことを伝え合い、演者の気づきや演じるとき大事にしたことを明らかにしていく。

・ 児童の感じたことを表現する手段として、「表情カード（おおかみワッペン）」を活用する。

② 多面的・多角的な思考を引き出すための発問の工夫 ～3段階発問～

導入・展開・まとめの学習場面において、それぞれ主となる発問を限定し、ねらいに沿った思考の流れを維持できる手立てをとる。

・ 導入…道徳的価値に対するイメージを共有する発問

- ・展開…教材を通して児童間の道徳的価値に対するイメージにずれを生む発問の発問（例：なぜ、面白いと思ってやっていたことをやめたのか。）
- ・まとめ…道徳的価値に対するイメージを見つめ直すことを促す発問

③ ねらいと自己の学びを明確にするためのICT活用場面の工夫

- ・「Googleスライド」を活用して、視覚的に教材や課題の把握ができるようにする。
- ・授業支援ソフト（まなびポケット）を活用して、教科書「まなび」の中の本時の学習と日常生活の架け橋となる「こころのパレット」をデジタル教材化して、即時に考えが共有できるようにする。また、既習事項がいつでも振り返られるように、ポートフォリオで学びの蓄積を図る。

(3) 研究テーマにかかわる評価・方法

個々の道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、感想文やワークシートなどで、以下を見取って評価する。また、児童が書きためた感想文のファイルや、デジタルワークシートのポートフォリオについて、年間を通して見取りながら、個の成長を児童自身や保護者と共有することで縦断的な評価を行う。

- ・他者の考え方に触れることで、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしたり、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしたりしているか。

⇒抽出児童3名…「親切・思いやり」における知識と行動レベルを3段階に分け、発言・ワークシートから個人内評価により変容を見取る。（H児・K児・D児）

また、児童が書きためた感想文のファイルや、デジタルワークシートのポートフォリオについて、年間を通しての変容を見取りながら、この成長を児童自身や保護者と共有することで縦断的な評価を行う。

3 指導計画

(1) 主題名

しんせつな こころ（内容項目B-6 親切・思いやり）

(2) 教材名

「はしの上のおおかみ」（かがやけみらい 学校図書）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

「親切」とは相手に対して思いやりの心をもって人のためにつくすことである。相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向ける「親切・思いやり」の心情を、本教材を通して高めていきたい。また、相手の存在を受け入れ、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりすることを通して、励ましや援助をする姿勢を期待したい。さらに、単に手を差し伸べることだけでなく、時に相手のことを考えて温かく見守ることは親切な行為の表れであり、相手のことを親身になって考えようとする態度を養うことで、日常生活がより豊かになる周りとの関係が築けることを期待する。

② 教材と児童

本教材は、主人公のおおかみが、自分より弱い動物たちに面白がって意地悪を続ける中で、自分よりも強いくまに親切にされた話である。そのことにより、親切にすることの素晴らしさに気付き、自分の行為を振り返り、優しい心で親切にするという内容である。

低学年の実態として、思いやりをもち相手の立場に立って考え行動することはとても難しいことである。そのため相手のことを考えず自分中心の考えで行動し友達に嫌な思いをさせてしまうことがある。遊びの延長から意地悪な行動をしてしまったという経験も少なくない。気持ちの変化を求めて、意図的に意地悪を楽しんでいるおおかみの気持ちを考えさせるとともに、意地悪をされた動物たちの気持ちと自分の生活を関連付けて考えることで、意地悪をされた側の気持ちに気付かせていきたい。また、親切にされたときの気持ちを考えるために、おおかみの心情の変化から親切にすることの大切さや喜びに気付かせ、

これからどのように行動することがよりよい人間関係につながっていくのかを考えさせていきたい。

(4) 他の教科、領域との関連について


	教科・領域	道徳科	学校行事・児童会活動
1 学期	生活「がっこうたんけん」 ～せんせいにいたびゅう～ (5月) 国語「おおきなかぶ」 (6月)	「すてきなまほう」 (6月) B-6 親切・思いやり	・1年生をむかえる会(4月) ・運動会(5月) ・栽培活動(5月)
2 学期	学活「2年生といっしょに あそぼう」(12月)	「はしの上のおおかみ」 (9月) B-6 親切・思いやり	・全校遠足(9月) ・児童会祭り(11月)
3 学期	学活「もうすぐ2年生」 (3月)		・6年生を送る会(2月)

(5) 本時のねらい

親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくことを通して、親切にすることによって良さに気づき、身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

「親切の良さ」…相手も自分も気持ちが良くなる。(晴々した気持ちになる。)

(6) 本時の展開 (令和5年9月20日実施)

段階	主な学習活動	T:教師の働きかけ C:予想される児童の反応 ★C:見方・考え方を働かせた児童の姿	・留意点 ○評価 ★見方・考え方を働かせるための手立て
導入 (学習意欲の高まり) 10分	1 「まなび」の「こころのパレット」を使って、絵の中から親切を見付け、自分の経験とつなげる。	T:「こころのパレット」の絵の中で、自分がしたことがある親切はありますか。絵を選びましょう。その時、 相手はどんな様子 でしたか。 C:家族のかたたたきをしている絵 C:友達を手伝う場面の絵 C:席を譲っている絵 →「ありがとう」と言っていた。 →にこにこして嬉しそうだった。 C:小さい子のお世話をしている絵 →「上手にできたね。」と言ったら喜んで いた。 →楽しそうだった。	・「まなび」の「こころのパレット」を活用し、本時の学習と日常生活をつなげる架け橋とする。 ・デジタル教材を電子黒板にキャストし、共有して考えを広げる。  ○自分の経験に近いものを選んで、その時の様子を思い出して書いている。 ★「親切」=「相手が喜ぶ」という子どもたちの現段階における道徳的価値に対するイメージを共有する。 ・児童の思いを引き出しながら課題を設定する。
	2 教材「はしのうえのおおかみ」を読んで話し合う。	(P64～P65を読む。) T:おおかみさんは、どんな顔をしていそうですか。	・Googleスライドで場面を1ページずつ提示しながら内容を理解させる。

(1) 意地悪をするおおかみの気持ちを考える。

(2) くまを見送るおおかみの気持ちを考える。

(3) うさぎを抱き上げてそっと下ろしてあげたときのおおかみの気持ちを考える。

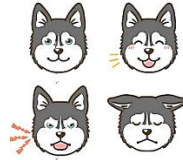
C: (選んだ表情に挙手する。)
 T: うさぎさん、きつねさん、たぬきさんに「こらこら、もどれもどれ。」と言ったおおかみさんは、どんな気持ちだったでしょうか。
 C: 俺が先にいたんだぞ。だからもどれ。
 C: 俺は強いんだぞ。
 C: 楽しいな。
 C: 面白いな。
 C: もっとやろう。
 T: みんなおおかみさんの気持ち、よく分かるね。

(P66～「立っていました。」まで読む。)
 T: おおかみさんは、どんな顔をしていそうですか。
 C: (選んだ表情に挙手する。)
 T: くまさんの後ろ姿を見送りながら、おおかみさんはどんなことを考えていたでしょう。
 C: くまさんありがとう。
 C: くまさんは優しいな。
 C: くまさんが来たとき、びっくりしてごめんね。
 C: みんなに悪いことをしてしまったな。
 C: ぼくもそうすればよかったな。(後悔している。)
 C: なんてぼくに優しくしてくれたんだろう。
 ★C: ぼくもくまさんみたいに優しくしよう。
 C: ぼくもくまさんのマネをしよう。
 T: くまさんじゃなかったら、優しいことをマネしないかな。
 ★C: くまさんじゃなくても、優しくしてくれたことが嬉しかったから、優しくしようと思うんじゃないかな。
 T: くまさんの親切がおおかみさんにも移っていききましたね。
 T: おおかみさんは、今までの自分を考えてどう思ったかな。
 ★C: 今まで意地悪をして悪いことをしたな。
 ★C: 今度からこんなことないようにしよう。

(P67「つぎの日」から最後まで読む。)
 T: おおかみさんは、どんな顔をしていそうですか。
 C: (選んだ表情に挙手する。)
 T: 意地悪を楽しんでいたおおかみさんは、なぜ、うさぎを抱き上げて後ろにそっと下ろしたのでしょうかね…。
 このとき、おおかみはさんどんな気持ちだったか。みんなでおおかみになって考えてみましょう。
 「なりきりタイム」です。
 (役割演技1…ペアで)
 (役割演技2…代表ペア)
 T: おおかみさん、どんな気持ちでしたか。
 C: うさぎさんが喜んでくれて良かったな。
 ★C: 優しくすると、いい気持ちだな。
 T: 誰がですか？
 ★C: (親切にした) 相手が。自分も。
 ★C: もっと他の友達に優しくしてあげたい。

★おおかみの気持ちの変化に気付くために

- ①自分より弱い動物たちに意地悪して楽しむおおかみの気持ちに自我関与して考えさせる。
- ②様々な表情の「おおかみワッペン」を用いる。



・Googleスライドで画面に「くまを見送るおおかみ」のページを表示する。
 ★親切にされたときの気持ちを考えさせるために、おおかみに自我関与して考えさせる。
 ★道徳的価値について考えている発言を取り上げながら、視点を広げていく。

★相手の見た目やイメージではなく、相手の行動から気持ちが動いたことに気付かせる。

★「親切は人から人へ伝わっていく」ことにも触れる。

・「次の日、うさぎに合う場面」から役割演技を行う。
 ★実感が伴うよう自由にセリフを考えさせながら、自分事として捉えられるようにする。
 ・感情が現れるように、様々な表情の「おおかみワッペン」から自分が選んだものを付けて演技をする。
 ・ペアの会話を拾いながら、代表ペアを決定する。

★おおかみに親切にしてもらったときの動物たちの気持ちにも触れて、お互いがよい気持ちになったことに気付かせ

		<p>★C:なんだか心が温かくなるな。 T:誰がですか？ ★C:(親切にした)相手が。自分も。 ★C:前(意地悪していた時)より、気持ちが「はればれ」する。 T:晴々というのは、どんな感じですか？ C:すっきりした気持ち。 C:(天気が)晴れて、お日様が出た感じ。 C:にこにこした感じ。</p>	<p>る。 ★感想で、「誰が」の問い返しにより、道徳的価値の深まりを期待する。 ○友達の見方や役割演技を通して、気付いたことや考えたことを伝えようとしている。(発言、つぶやき、表情、役割演技)</p>
<p>終末 (まとめ・ふりかえり) 10分</p>	<p>3 児童の考えをもとに、まとめをする。 4 まとめから自分自身を見つめ、これからしていきたい親切を伝え合ってふりかえりをする。</p>	<p>T:今日は、みんなでおおかみさんの気持ちになって考えましたね。おおかみさん、親切に変わりましたね。 (◎を示し、)親切にすると…。 ★C:自分も嬉しくなる。 C:気持ちが良い。 C:晴々する。 ★C:親切にする人が増えていく。 まとめ しんせつにすると、あいてもじぶんもきもちがよい。(はればれする。) T:親切について、みんなで一生懸命かんがえましたね。これからも親切が増えていくとみんな気持ち良く過ごせそうですね。 みなさんも、誰かに親切にできて良かったと思ったことがありますか。 C:(何人かの児童が発言する。) T:親切にできたときのことを思い出して、気持ちを書きましよう。忘れてしまったと思う人は、これからやってみようと思う親切を書きましよう。 できた人からペア発表をましよう。 ★C:泣いている友達に「大丈夫」と言ったら元気が出たから、良かったと思いました。 ★C:友達の落とし物を拾って届けたとき、「ありがとう」と言われてうれしかったです。 ★C:友達が算数で分からないところがあるときに教えたら、分かってくれて良かったと思いました。 ★C:お母さんが忙しいときにお手伝いをしたら嬉しそうだったから、手伝って良かったと思いました。</p>	<p>★児童から出た言葉の中で、「自分も」「気持ちがよくなる」などのキーワードを取り上げ、まとめていく。 ・導入の「まなび」の「このころのパレット」を想起させる。(電子黒板にキャストする。) ★本時の学習で親切にすることの素晴らしさや大切さに気付いたことをもとに、「自分が親切にできたときの気持ち」を振り返ることでこれからの生き方につなげていく。 ★振り返りの視点を示す。 ①親切にできたこと ②そのときの気持ち ③やってみようと思う親切 ○友達とこれから関わっていく中で大切なことは何かについて、自分の生き方と関連付けながら考え、ワークシートに書いている。 (発表、つぶやき、表情、ワークシート)</p>

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・親切について、友達の発表や役割演技を通して多様な視点から、よさや大切なことについて考えていたか。(物事を多面的・多角的に考えている様子)
- ・親切にすることの大切さを、自分との関わりの中で捉え、考えを深めていたか。(道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子)

② 評価の方法

- ・役割演技後の発言やつぶやきを板書し、ネームプレートを貼って記録する。
- ・ワークシートやデジタル教材(まなびポケット)での記述で見る。

(8) 板書計画

9がつ2にち すいようび

◎ みんなでかんがえよう。

しんせつにすると、()

はしのうえのおおかみ

◎ おおかみのきもち

□ おれがさきだ。もどれ！

□ おれは、つよいぞ。

□ たのしいな。

□ おもしろいな。

□ もっとやってやろう。

□ くまさんはやさしいな。

□ くまさんありがとう。

□ くまさんはかっこいいな。

□ くまさんのまねをしよう。

□ やさしくされてうれしいな。

□ みんなにわるいことをしたな。

□ しんせつはひろがる。

□ うきぎさんがよろこんでくれてよかつたな。

□ ほかのともだちにもやさしくしよう。

□ やさしくするといいきもちだな。

□ はればれする。↓にっこり、あおぞら

□ しんせつにすると、あいてもじぶんもきもちがよい。(はればれする。)



4 実践を振り返って
(1) 授業の実際 (成果)



① 「役割演技」の活用について

語彙が少ない低学年においては、体験的な活動を通じて実感を伴うことで道徳的価値の意味について考えを深めることができるであろうと考え、「役割演技」を取り入れた。「親切・思いやり」の価値項目について考える今回の授業実践においては、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、相手を助けたりする行動を通して、親切にすることは、相手も自分も良い気持ちになるということを実感してほしいと考えた。「はしのうえのおおかみ」での「役割演技」は、「これまで周りに意地悪をしてきたが、自分が親切にされたことで親切にしようになったおおかみ」の場面に焦点を当てた。

実際の「役割演技」では、ペアによって演技の内容に差が見られた。感じたことから自由にセリフを考えて演技しているペアは、体験的に「親切にすることの良さ」を学んでいると見取れたが、「(橋を通して)ありがとう。」「どういたしまして。」と挨拶を交わすのみにとどまったペアも多かった。そこで、役割演技の途中で、自分の思いを織り交ぜながら「役割演技」をしているペアを取り上げ、全体の前で演技させ、感想を聞くことで、道徳的価値への気付きにつながるのではないかと考えた。徐々に対話が増えていったが、学習計画にあった「感じ取ったことを演技に生かす」のではなく、「演技をして感じたことから新たな気付きが生まれる」という展開となった。いずれにせよ、体験的に道徳的価値について理解を深めることについて「役割演技」は有効であったと考える。

② 発問の工夫について

主な発問を3段階に分けて提示することで、児童にじっくり考えさせたい場面を限定した。1段階目を「児童の思いを引き出しながら課題を設定するための発問」、2段階目を「本時に深めたい道徳的価値に対する発問」、3段階目を「実生活と結びつけるための発問」とし、自己の変容の自覚が分かるように工夫した。

子どもたちの発言やワークシートの記述から、この3段階の主な発問により、初めは「親切にすると相手が良い気持ちになる」という児童の思いから、徐々に「親切にする側」の気持ちになって考えを深め、終末では「親切にすると相手も自分も気持ちよくなる」という思いをもつことができたと考える。

また、問い返しの発問の重要性を実感した。教師の発問1つで、子どもたちの思考の流れが一気に変化することがある。本時においては、2段階目の深めたい道徳的価値に対する発問の展開場面で、児童一人一人の考えを引き出して広げるために、全体に伝わりやすくイメージが湧く言葉を考えながら問い返し、深めていくことを意識した。

児童の振り返りの記述

☆しんせつにすると、しんせつにされたひとがいきもちになるし、じぶんもすっきりする。だから、ぼくは、ともだちにやさしくしたいです。

☆おばあちゃんに、マッサージをしてあげたいです。おばあちゃんがうれしいと、ぼくもうれしいからです。

☆まっているともだちに、「おさきにどうぞ」といってあげたいです。ともだちのためになるからです。よろこんでくれると、うれしいです。

③ ICT活用場面の工夫について

ICTを活用した展開場面は2つである。1つ目は、導入での実体験を想起する際に用いたデジタル教材である。実際に自分がしたことのある「親切」の絵を選び、その時の相手の様子や言葉をタブレットに記述する活動を行った。電子黒板上に全児童の考えを提示し、共有することで、児童にとって視覚的に既存の道徳的価値に対するイメージの共有を図ることができた。しかし、操作に手間取る児童の姿が数名見られたことや、自分の思いを最後まで記述することができなかった児童がいたため、今後の課題となった。2つ目は、資料提示でタブレットのスライド機能を用いたことである。教師が資料を読みながら、電子黒板に場面の挿し絵と吹き出しを提示した。タブレットのスライド機能を用いて提示したことで、児童にとって資料の内容理解がスムーズであった。内容がよく理解できていることが、児童が進んで自分の考えを伝えようとする姿に繋がったと考える。読み取りの道徳にならないための手立てとしても有効であると感じた。おおかみの気持ちを表情で表した「おおかみワッペン」を付け替える姿から、内容を理解して自分なりに思いをもっていることが分かった。



「おおかみワッペン」を付け替える児童の様子

(2) 研究テーマに関わって

「自他の関わり」により「自己の生き方について考えを深める」ことに関する評価は、児童の発言や振り返りの記述のポートフォリオや日常生活の姿の記録から見取った。

道徳の授業において、「自他の関わり」を通して道徳的価値の自覚の深まりを実感させる場を意図的に設定してきた。1学期当初、自分の考えを伝えたい気持ちが先行していた子どもたちであったが、ペアを変えながら様々な友達と考えの交流を繰り返すことで、友達の考えの良さに気が付いたり、共感したりすることができるようになった。その姿は他の

授業でも見られるようになり、算数では、自分の考えと比べて考えを述べることができるようになった児童もいる。

「自他の関わり」を通して「自己の生き方について考えを深める」ことについては、道徳の時間に児童が考えた価値項目について、その言葉の意味や良さを体験的に理解することが第一歩であると考え。これを達成した上で、個人差はあるが、日常生活においても意識的または無意識の中で言動に表れていたと感じる。例えば、友達に対して親切な言葉や行動が増えたり、親切にしている友達の姿を認めて褒める姿が見られるようになったりしたことである。さらに、「親切」が学級のキーワードになり「〇〇さん、親切だね。」「それは、親切にするってことだね。」など、子どもたち自身の「親切」に対するアンテナが高くなった。

知りたいことへの意欲が高い児童が多く、学びをスポンジのように吸収する子どもたちである。語彙を豊かにするための指導の工夫や、関わらせ方の工夫について考えながら授業を実践することにより、さらに「自他との関わり」が有効なものとなると考える。



(3) 今後の課題

① 評価について

変容を見るために、授業での発言・ワークシートの記述や学校生活全般における行動の記録などを活用して、個人内評価で変容を見取る計画を立てたが、全てにおいて全児童の把握までには至らなかった。子どもの見取りをするときに、数値で示すことができない道徳の評価について、一教師の感覚や考えや、指導要領の捉え方の違いで揺らぐことがない根拠をもとにした個人内評価ができると良い。

② 授業展開の工夫について

語彙が少ない小学校段階の子どもたちにとって、言葉をその正確な意味が分かり、生活で使っていけるようにすることが大切であると考え。そのために道徳の授業で取り上げる言葉を分かりやすく伝えた上で、道徳的価値とその良さや大切さを実感的に捉え、子どもたち自ら言葉や行動にしていける姿を目指したい。

道徳の授業の中で、子どもたちの言葉や表情によって私自身の心が温くなる瞬間があり、嬉しいと感じる。「なるほど、そう考えているのか。」と子どもたちから学ぶことも多い。今後も、子どもたちとともにじっくり道徳の授業を考えていきたい。そのために、子どもたちに寄り添って考えを深めたり広げたりしていける存在の一人でありたいと思う。

【参考文献・資料】

- ・ 小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」 文部科学省
- ・ 新しい学習指導要領「生きる力」学びと、その先へ 文部科学省
- ・ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告） 文部科学省
- ・ 特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用について 文部科学省
- ・ 道徳授業のPDCA 指導と評価の一体化で授業を変える！ 毛内 嘉成 編著 明治図書
- ・ 道徳板書スタンダード&アドバンス 有松 浩司 著 明治図書
- ・ 道徳教育5(2023) 端末or非端末？ メリットを生かした1人1台端末活用法 明治図書
- ・ 道徳教育6(2023) 多面的・多角的思考を生み出す発問大全 明治図書